

道南太平洋海域スケトウダラニュース

平成 17 年度 第 2 号 2005 年 9 月 30 日

北海道立函館水産試験場室蘭支場 TEL : 0143-22-2327 FAX : 0143-22-7605

平成 17 年度道南太平洋海域におけるスケトウダラ漁況の見通し

道南太平洋海域のスケトウダラ漁況の見通しについてお知らせいたします。

(内容は、各協議会総会、会議等で報告したものです)

スケトウダラニュースは PDF ファイルとして函館水産試験場ホームページからもごらんになります。ご利用ください。

<http://www.fishexp.pref.hokkaido.jp/exp/hakodate/>

資源は中水準ですが、減少傾向にあり、来遊資源量(重量)は前年より減少すると予想されます。これに伴い漁獲量も前年より減少するでしょう(全漁業合計で6~7万トン)。

漁獲物は尾叉長40~45cmの中~小型魚が中心となるでしょう(前年と同じ)。

漁期前半の10、11月の総漁獲量は前年同様低い水準となるでしょう。

漁場は例年よりやや浅く水深200~300mとなる可能性があります。その後は漁期が進むにつれて徐々に浅くなるでしょう。

平成18年度以降の情報:平成12年生まれ(2000年級)より後には卓越年級がでていません。

- 1.平成17年度道南海域に4歳魚として新たに加わる平成13年生まれの魚(2001年級群)は、前年度(平成16年度)の4歳(平成12年生まれ:2000年級群)と比較して少ないと予測されることから、資源量は前年より減少すると予想されます(図1)。資源は減少傾向にあり、漁獲量も前年より減少して全漁業混みで6~7万トン程度と予想されます。
- 2.前年度と同様に4~6歳魚が主体を占めると予想されるので、漁獲物も前年度と同様に尾叉長40~45cmが主体と考えられます。
- 3.9月に実施された計量魚探調査の結果から、道南太平洋海域に分布するスケトウダラの量は前年同様少ないと判断されることから、漁期はじめの10~11月の漁獲量は前年並みの低い水準(全漁業込みで2万トン程度)にとどまるでしょう(スケトウダラニュース第1号を参照してください)。平成12年から魚群の来遊が遅くなっており、今年度も継続していると考えられます(図2)。本格的な来遊は11月下旬以降と予想されますが、10月下旬、11月下旬に実施予定の魚探調査で詳細な状況を報告する予定です。
- 4.魚群の分布水深は200~300mと例年よりやや浅いことから、漁期はじめの漁場水深は例年より浅くなる可能性があります(スケトウダラニュース第1号を参照してください)。
- 5.釧路水試が実施している道東海域1歳魚を対象とした計量魚探調査の結果では、2000年生まれ(2000年級群)以降豊度の高い年級群(卓越年級群)が出現していません。現在の資源をうまく利用していくことが必要です。
- 6.今年度は、10月下旬、11月下旬、1月中旬に計量魚探調査を予定しています。結果は11月上旬、12月上旬、2月上旬にスケトウダラニュースで報告する予定です。

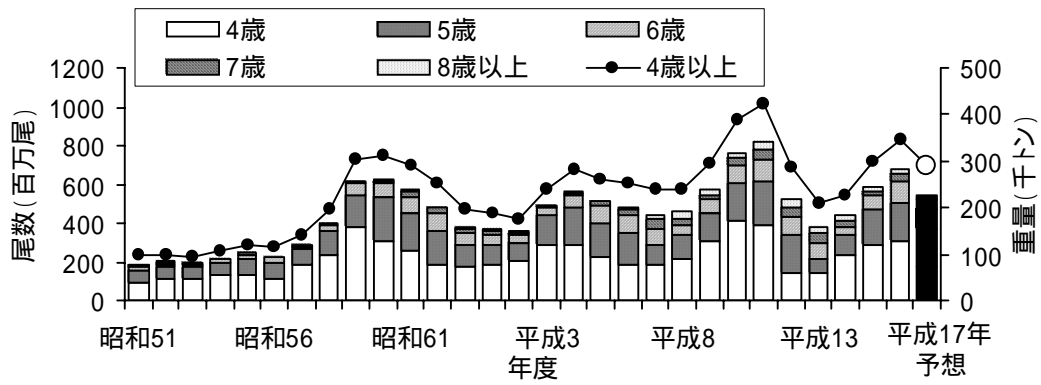


図1．道南太平洋海域のスケットウダラ資源尾数（棒グラフ）および重量（折れ線グラフ）の経年変化

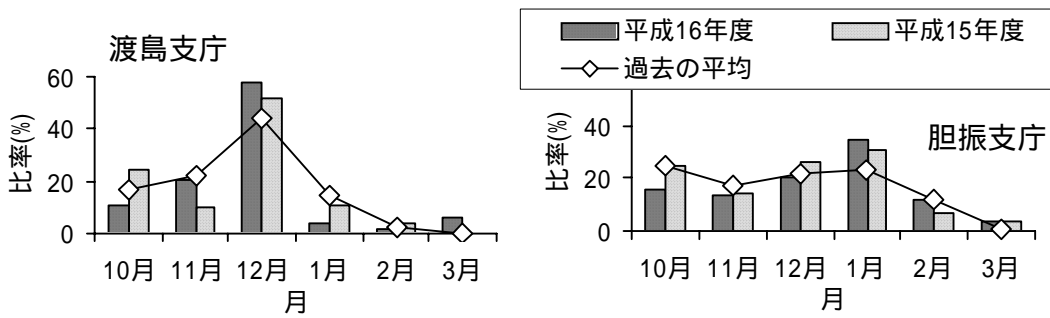
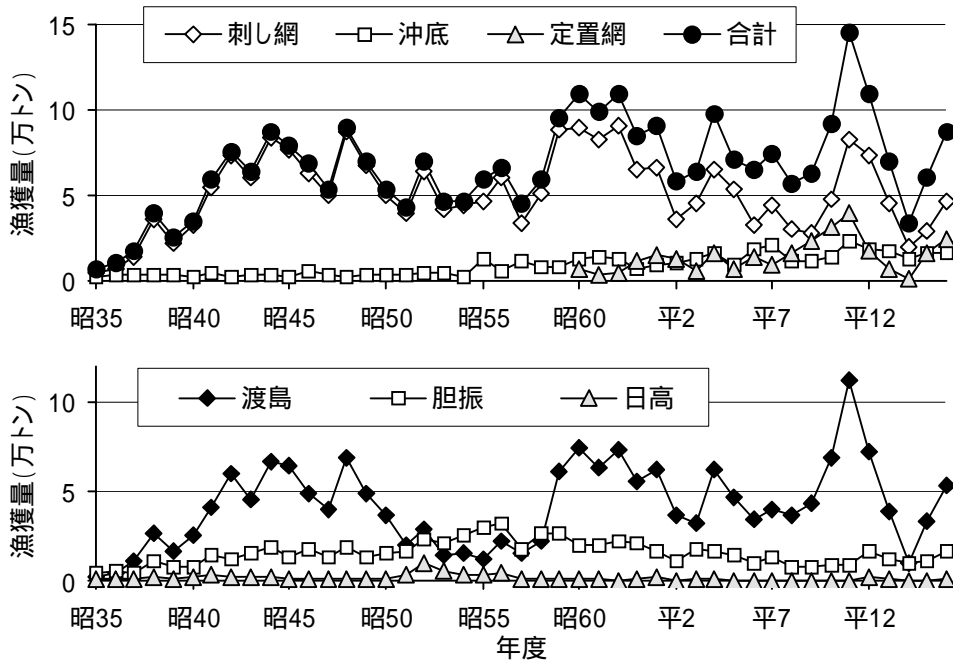


図2．島および胆振支庁の刺し網漁獲量の月別比率
棒グラフ：平成14年度、折れ線グラフ（昭和60年～平成13年度の平均）



参考 道南太平洋海域の漁業別（上）支庁別（下、刺し網と定置網）スケットウダラ漁獲量の推移